

2011年3月9日

パキスタン洪水被災者支援活動

完了報告書

اک مقدس فرض کی تکمیل ہوتی ہے یہاں؛ قیمتِ نوعِ بشر تبدیل



緊急救援担当: 白鳥 孝太 薄木 浩一郎

公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会(SVA) 東京事務所

〒160-0015 東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2・3F TEL:03-5360-1233

FAX:03-5360-1220 URL:<http://www.sva.or.jp/> E-mail:eru@sva.or.jp

● 皆様のあたたかいご支援、ありがとうございました ●

パキスタン洪水 被災者支援活動 完了報告書
社団法人シャンティ国際ボランティア会 2011年3月



『被災地の復興は、子どもたちの笑顔から』

2011年2月、SVAは6ヵ月にわたった支援活動を終了しましたので、ここにご報告致します。

突然、すべてを失い、途方に暮れた人々

記録的豪雨が2010年7月下旬、パキスタン北西部を襲いました。洪水が各地で発生し、1ヵ月が経過した後も、中部や南部へと被害は拡大し続けました。国土の5分の1が浸水し、被災者数約2,000万人(人口の1割以上)、死者数約2,000人となる、建国以来、国連創設以来の最悪級の水害となりとなりました。北西部では11月から本格的に冬に突入し、氷点下にもなることもある厳しい寒さのなかでテント暮らしを強いられている被災者が多くおり、お互いに助け合いながら支援を待ち続けていました。



水没した村を前に途方に暮れる村人(ノウシャラ郡)



緊急支援物資を取り合う被災者(ノウシャラ郡)

「地域」を中心とした復興への取組み

シャンティ国際ボランティア会(SVA)は、職員2人を2010年9月15日に被害の大きい地域の一つである北西部ハイバル・パフトウンハー州に派遣し、地元のNPOと協力しながら初動調査と食料や生活必需品の提供を開始しました。その後、無事に冬が越せ村の復興へと繋がるよう、防寒用品や生活用品を提供しました。また、後半の復興支援活動では、SVAの特性を活かした教育支援活動を行いました。



【支援活動 ①】 緊急支援物資の提供 (2010年9月～2010年10月)

初動期の2週間は、同じ防災ネットワーク(ADRRN)に加盟している現地 NPO の「New World Hope Organization」(NWHO)と連携し、被災状況の調査を行いながら食料や生活必需品を提供しました。

当初はすぐに生活必需品の提供や住宅の再建支援を行う予定で被災地の村に入りましたが、洪水により家だけでなく調理器具などもすべて流されてしまったため、「その日の食事」を自分たちで作るにも事欠くような状況でした。そこで急遽、すぐに食べられる食事の提供を始めました。9月には北西部のノウシャラ郡とチャルサダ郡で、3,000世帯を対象に「お弁当」の配布を行いました。村人に提供したのは温かい「チキン・ピリヤニ」のお弁当でした。鶏肉がのったピラフのようなご飯で、地元の人々には慣れ親しんだ味であったため、大変喜ばれました。

食料以外では、女性用ショール(肩掛け: 500世帯)、衛生用品(歯ブラシや消毒液など: 500世帯)を提供しました。



村人から被災状況とニーズを聞く八木沢 ARD(ノウシャラ郡)



洪水時の様子を語る村人(ノウシャラ郡)



「お弁当」をたくさん積んだワゴン車(ノウシャラ郡)



「お弁当」を手渡す薄木スタッフ(ノウシャラ郡)





やっとお弁当を受け取り喜ぶ子どもたち (ノウシャラ郡)



その場でお弁当を広げる子どもたち (ノウシャラ郡)



お弁当のチキン・ピリヤニ



アーメッドさん (60 歳)

洪水により自宅が押し流されてしまい、今はテントで暮らしています。この集落のほぼ全世帯が家を失いました。小さい子どもが 3 人いるので、生活はとても苦しいです。日本のみなさま、ご支援くださいまして、本当にどうもありがとうございます。

【支援活動 ②】 社会的弱者へ生活必需品の提供 (2010 年 10 月～2010 年 11 月)

10 月からは「2005 年パキスタン地震」の際に SVA が協働した経験がある現地 NPO の「Basic Education and Employable Skill Training」(BEST)と今回も協働し、ノウシャラ郡とチャルサダ郡の、もっとも支援を必要としている被災者の生活が少しでも改善されるよう、生活必需品の提供を始めました。洪水発生時の泥流で、家財道具をすべて流されてしまった家族も多く、布団、枕、ベッドなどの寝具や鍋や食器類などの台所用品(32 世帯)を、病人や障がい者が暮らす家庭や高齢者世帯を優先に直接手渡しました。



義援金をもらうために郡庁に殺到する被災者 (ノウシャラ郡)



支援物資の生活必需品



公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会
私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。



支援物資を手渡す SVA スタッフ (ノウシャラ郡)



トラックから降ろされる支援物資(ノウシャラ郡)



支援物資の寝具や調理器具



モヒブ・ガルさん(24 歳)
 家族8人で暮らしていますが、
 家財道具も家畜もすべて流さ
 れてしまい、本当に困って
 います。日本の皆さんから
 いただいたこのベッドや調理
 器具は、本当にありがたいです。

【支援活動 ③】 越冬対策と生活再建支援 (2010 年 11 月～2011 年 2 月)

11 月から本格的に厳しい冬が始まり、12 月から 1 月にかけて夜間の最低気温記録が 0℃から 4℃になるため、越冬対策が急務な状況でした。衛生状態や栄養摂取状態が改善されないまま冬を迎えることで、体調不良や伝染病の蔓延などが懸念されました。

そのため、11 月からは現地 NPO の「BEST」と協働し、ジャパン・プラットフォーム(JPF)助成事業として、ノウシャラ郡チャオキドラブ村にて越冬対策を行いました。被災者が無事に冬を越せるよう、また各々の世帯や集落がより早く復興へ向けての一步を踏み出せるように、避難生活の環境改善を目的として、防寒用品、仮設住居建設用資器材、家畜、ミシンの提供を始めました。



「何が一番必要か」を村人に確認する白鳥スタッフ



予定の 1 時間前から支援物資の到着を待つ村人





支援物資を手渡す白鳥、薄木スタッフ



活用されているベッドや食器



扉が開けられると元気よく顔を出したヤギ



トラックから一頭一頭降ろされるヤギ



村人にヤギを届ける薄木スタッフ



村人から何度も手を握られる白鳥スタッフ



提供されたミシンで作った衣服は貴重な収入源



仮設住居建設用の資器材を運ぶ村人

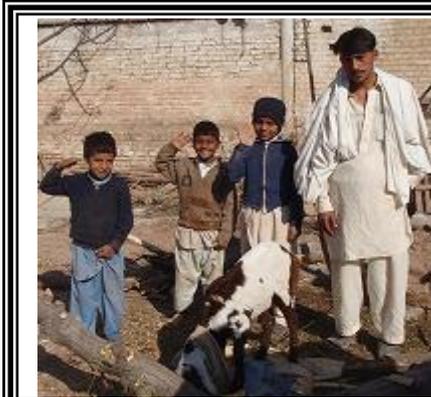


ようやく完成した仮設住居で寒さをしのぐ村人





完成セレモニーでノウシャラ郡長たちと記念撮影



ニサル・ムハンマドさん と子どもたち (30歳)

洪水で家畜がすべて流されてしまいい、とても困っていました。そんな中、ヤギをいただけて本当に助かっています。はやく元の生活を取り戻せるよう、家族全員でがんばっていきたく思います。日本のみなさんにはとても感謝しています。

【支援活動 ④】越冬対策と生活再建支援の継続 (2010年12月～2011年1月)

12月にはノウシャラ郡ミシャック村にて、生活必需品と防寒用品の提供を行いました。この村は首都イスラマバードから車で約2時間半かかる、町から遠く離れた奥地に位置します。そのため、外部からの支援がなかなか届かず、早急な助けを必要としていました。

SVAでは、チャオキドラブ村だけでなく、同じノウシャラ郡のこの村でも支援活動を行うことに決めました。この村でも生活の再建と越冬を目的として、寝具、台所用品、衛生用品、防寒用品などを、特に生活に困窮している120世帯へ提供しました。



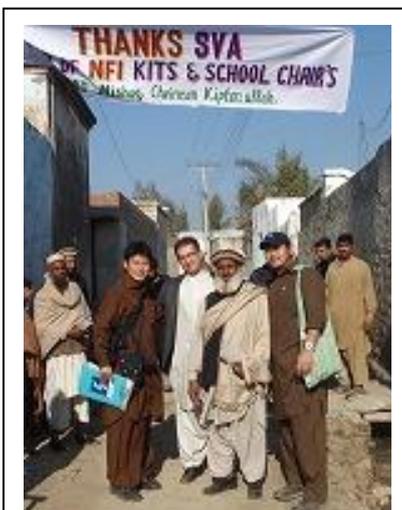
ミシャック村への道のりはかなり厳しい



ミシャック村の風景



支援物資を手渡す薄木スタッフ



村の長老とSVAへの感謝の横断幕



村人の前でスピーチをする薄木スタッフ



支援物資をロバに載せて持ち帰る村人



グサッド・パールさん (60歳)

洪水で家が壊されました。ただでさえ貧しいのに、これからの未来どうすればいいのか…。そんな中、日本のみなさんが支援をしてくれたことに、本当に感謝しています。



公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会
私たちは向き合います。苦難の中にある人々と世界に。

【支援活動 ⑤】被災した小学校への教育支援（2011年1月～2011年2月）

1月からは、「村の復興は子どもたちの笑顔から」を目標に、SVAの特性を活かした教育支援活動を、ノウシャラ郡ミシャック村にて行いました。12月にこの村で生活必需品と防寒用品の提供を行った際に、村の小学校4校(男子校3校、女子校1校)が洪水の被害にあったことを知りました。村人と協議を重ねた結果、被災した子どもたちに元気になってもらうために、この小学校4校を支援することに決めました。

小学校を視察したところ、洪水の被害が残っていただけでなく、元々貧しい村なので机や椅子などの基本的な備品や教育教材もなく、子どもたちは薄暗い教室の冷たい床や、校庭の日陰に座って勉強していました。そこでSVAでは、この4校の小学校に生徒用の椅子、教員用の机と椅子、黒板、本棚、電気(蛍光灯)、制服、絵本、スポーツ用品、世界地図、地球儀を提供しました。

また、子どもたちに楽しんでもらい元気になってもらうため、「絵本の読み聞かせイベント」と「クリケット大会」を開催しました。この村は町から遠く離れているため絵本などの書籍はほとんどなく、絵本の読み聞かせを行うと特に女の子たちは大喜びで、絵本の世界にすっかり入り込んでいました。フラフープなどの遊具も初めて見たようで、大はしゃぎで遊んでいました。また「クリケット大会」では学校対抗試合が行われ、男の子たちが必死になってボールを追いかけていました。最後には両チームにトロフィーも贈られ、みんなとても喜んでいました。

この活動により、洪水の被害にあったミシャック村の子どもたちが少しでも元気を取り戻し、その子どもたちの笑顔によって大人たちも元気づけられ、村の復興の活力となることを祈るばかりです。



校庭の日陰で勉強していた男子生徒



冷たい床に座って勉強していた女子生徒



新しい椅子で勉強する男子生徒



新しい椅子で勉強する女子生徒



読み聞かせに夢中になる女子生徒





フラフープに大はしゃぎの女子生徒



世界地図で日本の位置を探す子どもたち



黒板にさっそく自分の名前を書く子どもたち



提供された絵本や地球儀



小学校の教員に地球儀を手渡す



提供された教員用の机と椅子



クリケットのバットに喜ぶ子どもたち



赤、白、青の制服に喜ぶ女子生徒



提供された本棚



修理された蛍光灯



学校対抗クリケット大会は大いに盛り上がった

ムハンマド君 (小学5年生) クリケットの道具がもらえ、今日の試合で MVP ももらえて本当にうれしいよ。これから毎日、友達と一緒にクリケットをして、もっともっと上手になるんだ。日本のみなさん、本当にどうもありがとう! いっぱい勉強していっぱい遊ぶね!



試合に勝って大喜びの子どもたち



試合の後にみんなで記念写真



公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会
私たちは向き合います。苦難の中にある人々と世界に。

【支援活動 ⑥】 パキスタン洪水被災者支援活動（アフガニスタン事務所分）
（2010年7月、2011年1月～2011年2月）

パキスタンのみならず、1週間に及ぶ強いモンスーンの影響で、アフガニスタン東部クナール州でも15,000戸以上の家屋が破壊され、約400人が洪水で亡くなりました。洪水と増水した川の水により約2,000戸が全壊し、2,500世帯がテントや親戚の家に避難しました。約100人が死亡し、子どもと女性を含む20人が行方不明となっています。

SVAでは2010年7月下旬に、サーカノ郡バナイ村にある難民キャンプの被災者に対して支援活動を行いました。この難民キャンプでは、以前パキスタンに逃れていたアフガニスタン難民が、パキスタン軍と反政府武装勢力との間の紛争のため3年前にアフガニスタン側に戻り、河沿いに自分たちで家屋を建てて生活していました。SVAは135世帯へ、米と油を提供しました。

また、2011年2月にも、クナール州とナンガルハール州にて支援活動を行い、約250世帯に対して食料を提供しました。



増水した水により決壊した橋



米と油を手渡す SVA アフガニスタン事務所スタッフ

● SVA緊急救援活動のあり方 ●

当会の願い「共に生き、共に学ぶ」シャンティ(平和)な世界の実現のために、国内外の自然災害などの緊急事態に際し、以下の姿勢を大切にして救援活動に取り組んでいます。

- ① **地域に根ざした活動の展開**・・・被災地域の地域性(文化・伝統・習慣・制度など)を尊重しながら支援活動を行います。そのため被災地域の団体や個人とも協働しながら支援活動を進めます。
- ② **人に寄り添い、より必要な人に必要な支援を**
 ...「与える支援」ではなく、「共に苦悩を分かち合い、解決策を一緒に考え行動する支援」を行います。被災者に寄り添いながら活動する中で、支援の届きにくい人々へ必要な支援を行います。
- ③ **子どもと住民の安心のために**・・・特に災害弱者である子どもへの支援を重視し、図書館活動や学校建設など通常の教育支援活動で培った経験やネットワークを活かして支援活動を行います。また単なる応急処置的支援ではなく、中長期的視点から被災後の生活再建・地域復興につながる支援活動を行います。

■ パキスタン洪水被災者支援活動 決算見込 ■
(期間 : 2010 年 9 月 ~ 2011 年 2 月末)

I. 収入の部			
区分	項目	収入見込(円)	
総収入 (2010年9月15日~2011年2月10日)	一般募金(140の個人・団体からのご寄付)	9,311,086	
	ジャパン・プラットフォーム(JPF)からの助成金	16,464,896	
(1) 収入合計		25,775,982	
SVA「2010年期末レート」⇒ 1パキスタンルピー(PKR) = 0.98円 / 1米ドル(\$) = 81.13円			
II. 支出の部			
区分	活動名(項目)	備考	支出見込(円)
	① 緊急支援物資の提供	緊急食料(3,000世帯)、女性用ショール(500世帯)、衛生用品(500世帯)	539,980
	② 社会的弱者への生活必需品の提供	布団、枕、ベッドなどの寝具や鍋や食器類などの台所用品(32世帯)	416,500
	③ 越冬支援活動(JPF資金)	防寒用品(850世帯)、仮設住居建設用資器材(120世帯)、家畜(70世帯)、ミン(70世帯)	10,066,680
	④ 越冬支援活動(SVA資金)	生活必需品と防寒用品(台所用品、衛生用品、寝具:120世帯)	2,212,217
	⑤ 被災地教育支援活動	机と椅子、黒板、本棚、電気(蛍光灯)、制服、絵本、スポーツ用品、世界地図、地球儀	570,478
	⑥ 洪水支援(アフガニスタン事務所分)	アフガニスタン側(クナール州)での緊急支援物資の提供	1,398,090
	(a) 直接事業費(被災者支援活動事業費) 小計		15,203,945
	⑦ 渡航・滞在費(JPF資金)	JPF事業期間中の東京⇄パキスタン往復旅費、移動諸費、宿泊費	2,107,835
	⑧ 渡航・滞在費(SVA資金)	JPF事業期間外の東京⇄パキスタン往復旅費、移動諸費、宿泊費	828,378
	担当職員人件費(JPF資金)	JPF事業期間中の現地派遣担当者、東京事務所担当者人件費(6ヶ月間)	1,760,381
	担当職員人件費(SVA資金)	JPF事業期間外の現地派遣担当者、東京事務所担当者人件費(6ヶ月間)	2,202,659
	⑨ その他経費(広報・報告経費等)	募金呼びかけ・事業報告経費等、郵送料、印刷費、広報諸費	120,000
	(b) 事業経費(各種経費および職員人件費) 小計		7,019,253
	(A) 事業費合計 (a)+(b)		22,223,198
	パートナー団体協働事業(①②③④⑦)間接費	¥15,343,212 人件費を除く現地団体協働事業費の10%	1,534,321
	SVA単独事業(⑤⑥⑧⑨)間接費	¥2,916,946 人件費を除くSVA単独事業費の20%	583,389
	(B) 事業間接費 (「パートナー団体協働事業 間接費」+「SVA単独事業 間接費」の合計)		2,117,710
	(C) 外部監査費		500,000
	(2) 支出合計 (A)+(B)+(C)		24,840,908
	(3) 収支差額 (1)-(2)		935,074

■お問い合わせ■ 公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会(SVA)

緊急救援担当: 白鳥、薄木

〒160-0015 東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2・3F

TEL:03-5360-1233 FAX:03-5360-1220 E-mail: eru@sva.or.jp



シャンティ国際ボランティア会
私たちは向き合います。苦難の中にある人々と世界に。